

【大型構造物】

5. 点検（修繕）結果の考察

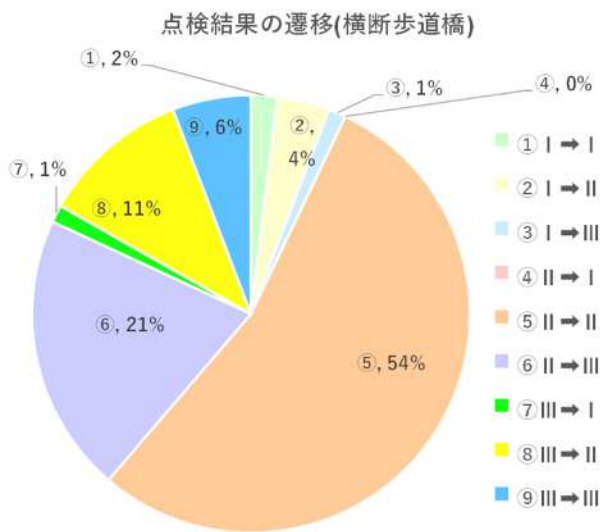
5. 点検（修繕）結果の考察

点検結果の遷移（大型構造物）

- 横断歩道橋は、Ⅱ➡Ⅲの割合が他の施設に比べて大きい。
- 門型標識は、健全である。

横断歩道橋

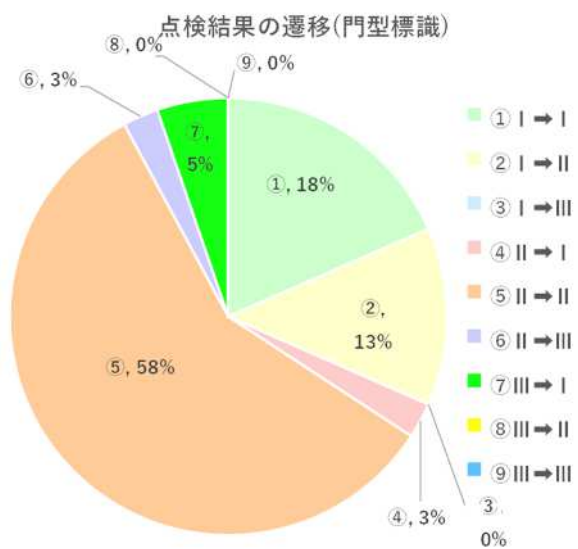
155施設



パターン	1巡目	2 巡目	施設	割合
①	Ⅰ	Ⅰ	3	1.9%
②		Ⅱ	6	3.9%
③		Ⅲ	2	1.3%
④	Ⅱ	Ⅰ	0	0.0%
⑤		Ⅱ	84	54.2%
⑥		Ⅲ	32	20.6%
⑦	Ⅲ	Ⅰ	2	1.3%
⑧		Ⅱ	17	11.0%
⑨		Ⅲ	9	5.8%
合計			155	100.0%

門型標識

38施設



パターン	1巡目	2 巡目	施設	割合
①	Ⅰ	Ⅰ	7	18.4%
②		Ⅱ	5	13.2%
③		Ⅲ	0	0.0%
④	Ⅱ	Ⅰ	1	2.6%
⑤		Ⅱ	22	57.9%
⑥		Ⅲ	1	2.6%
⑦	Ⅲ	Ⅰ	2	5.3%
⑧		Ⅱ	0	0.0%
⑨		Ⅲ	0	0.0%
合計			38	100.0%

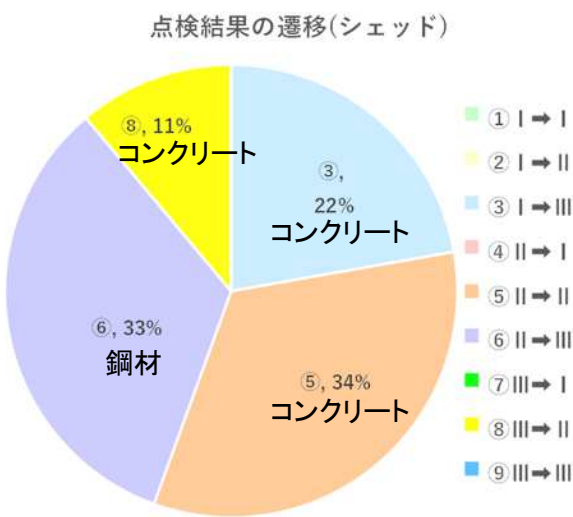
5. 点検（修繕）結果の考察

点検結果の遷移（大型構造物）

- シェッドは、Ⅰ ➡ ⅢとⅡ ➡ Ⅲの割合が大きい。
- 大型カルバートは、健全である。

シェッド

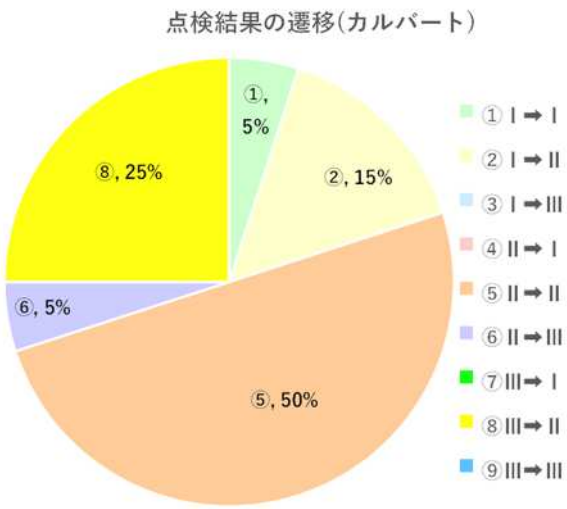
9 施設



パターン	1巡目	2 巡目	施設	割合
①	Ⅰ	Ⅰ	0	0.0%
②		Ⅱ	0	0.0%
③		Ⅲ	2	22.2%
④	Ⅱ	Ⅰ	0	0.0%
⑤		Ⅱ	3	33.3%
⑥		Ⅲ	3	33.3%
⑦	Ⅲ	Ⅰ	0	0.0%
⑧		Ⅱ	1	11.1%
⑨		Ⅲ	0	0.0%
合計			9	100.0%

大型カルバート

20 施設



パターン	1巡目	2 巡目	施設	割合
①	Ⅰ	Ⅰ	1	5.0%
②		Ⅱ	3	15.0%
③		Ⅲ	0	0.0%
④	Ⅱ	Ⅰ	0	0.0%
⑤		Ⅱ	10	50.0%
⑥		Ⅲ	1	5.0%
⑦	Ⅲ	Ⅰ	0	0.0%
⑧		Ⅱ	5	25.0%
⑨		Ⅲ	0	0.0%
合計			20	100.0%

5. 点検（修繕）結果の考察

点検結果の遷移（大型構造物）

- 以下に着目し、原因や対策の検討を行い、予防保全管理の深化へつなげる。

着目点1

1巡目 **I** から（修繕無） 2巡目 **III** への遷移

前回点検から5年間の内に**劣化が急速に進行**した原因を考察し、維持管理における留意点や対策を検討する。

着目点2

1巡目 **III** から（修繕後） 2巡目 **II** または **III** への遷移

Ⅲの措置後の点検でⅡまたはⅢと判定された部材について、原因考察を行い、**再劣化※**の抑制対策を検討する。

※**再劣化**とは、修繕を行った箇所が次の点検までに再び劣化している状況のことである。

5. 点検（修繕）結果の考察

点検結果の遷移（大型構造物）

- I → III は、漏水や滞水が原因で劣化が急速に進行
- III → II は、漏水による再劣化（III → 修繕 → II）である。

着目点1

I → III

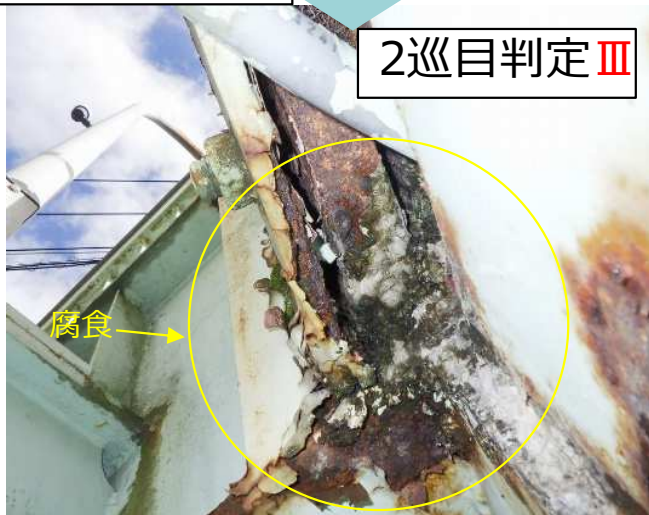
劣化が急速に進行

横断歩道橋（鋼材）

1巡目判定 I

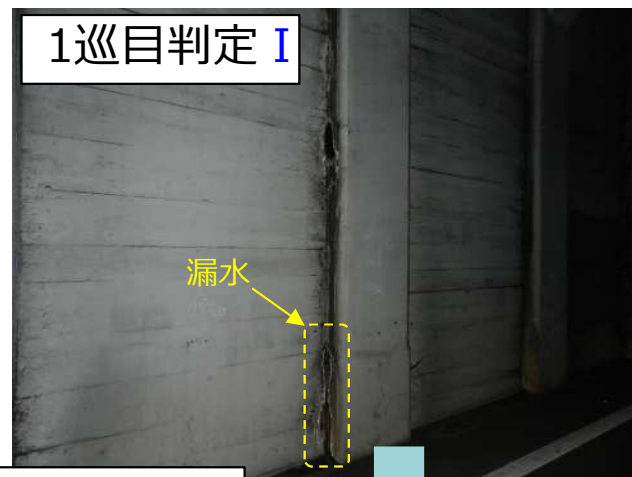


2巡目判定 III



シェッド（コンクリート）

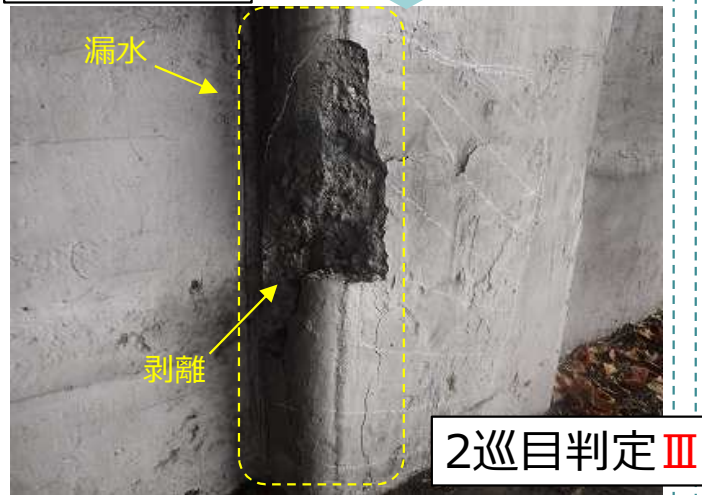
1巡目判定 I



漏水

剥離

2巡目判定 III



着目点2

III → II 再劣化

横断歩道橋（鋼材）

1巡目判定 III



塗装塗替え実施（III → I）

2巡目判定 II



点検（修繕）結果の考察（大型構造物）

分析結果

横断歩道橋

- ・ 階段部や接続部は漏水や滞水による劣化損傷（主に腐食）が多い。
- ・ 一部に再劣化が見られる。（主に漏水が原因）

門型標識

- ・ 全体的に健全であり、再劣化は見られなかった。

シェッド

- ・ コンクリートシェッドは、漏水が原因の劣化損傷が確認される。
- ・ 鋼製シェッドの3施設は、法面部に落石対策工を実施するため、撤去予定

大型カルバート

- ・ 全体的に健全であり、再劣化は見られなかった。

考 察

水の影響による急速な劣化が確認されるため、漏水対策を確実に行うことが重要と考える。